

(4) 平成29年度事業計画について

① 黒岳トイレの管理運営について

黒岳トイレの利用についてはオーバーユース状態であるが、200円の協力金は5割程度しか入っていない状況である。この課題解決を関係機関と協議の上、最善策を見出すことに努める。特に安定的な維持管理費を確保するため、協力金納付の向上が必要であり、各所にポスターの掲示やチラシ配布（備え置き）を行い周知する。また、ポータブルトイレの利用拡大のための方策を検討し、7月後半の繁忙期については、黒岳石室管理人により協力金の呼びかけ等を行い納付の向上に努める。

② 白雲岳避難小屋の管理運営等について

白雲岳避難小屋については、平成21年度に減少した利用者が回復傾向にあり、登山ルート的重要施設であることに鑑み、今年度も2名の管理人を配置し、登山者の安全確保と自然環境保護の啓発を図る。

③ 自然保護巡視事業について

自然保護巡視事業は、高山植物の盗掘防止と利用者の安全と環境保護のため、上川町・りんゆう観光・高原山荘が負担し巡視員を確保してきましたが、前年度までもNPO かむいに巡視人員の確保を依頼していたため、29年度から巡視員の確保も含め巡視事業をNPO かむいに委託とする。

④ 白雲岳避難小屋での携帯トイレ配布について

標記の件について、今後の携帯トイレの更なる普及啓発及び定着促進を目的に本年より、大雪山の縦走の拠点の一つである「白雲岳避難小屋」において、携帯トイレの配布を試行的に実施することとする。

なお、配布に当たっては管理人からの携帯トイレの使用のレクチャーと山のトイレを考える会作成の「山のトイレマップ」を手渡しすることにより、携帯トイレの趣旨等を説明、理解を促すとともに、無償による「ばらまき」ではなく、理解をいただいた方からの山岳トイレ問題への「協力金として有償での配布方式」を試行的に実施する。

⑤ 沼めぐりコースの利用について

土地利用者である林野庁から、同コースの利用について、活性化を図りたい旨提案があったことから、委託事業の内容も含め関係者と協議する。

⑥ 携帯トイレの利用促進について

携帯トイレの利用促進を図るため、回収ボックスの追加設置を検討する。